新書紹介

国際交通シンポジウム「人間と交通」そのすべて——

PROCEEDINGS
INTERNATIONAL SYMPOSIUM
"MAN AND TRANSPORT"

朝日新聞社　A 4版　295頁
10,000円

この本は定価があまりにも高すぎることから，専門家であっても実際手に入れる人は限られるであろうし，又個人が年月をかけ，ようやく書き上げたという本でもない。昨年9月朝日新聞社が主催した国際シンポジウム「人間と交通」の収録とそれに関連した資料の集約本である。

しかしながら，シンポジウムに参加した人達には当時を思い起す中で，様々なヒントと発想を提供してくれ，ちょっとしたきっかけから手にした人達にとっては，交通に関する新しい世界と考え方を教えてくれるにちがいない。

新宿は京王プラザホテルで，5日間にわたって開催された当シンポジウムは，記念講演と5つの分科会<第一分科会：世界の都市は自動車の動きをなぜ減らそうとしているか，第二分科会：歩く意欲の生まれる町に，第三分科会：なにを背景に新しい交通システムは生まれようとしているか，第四分科会：世界の都市から—その新しい試みと市民の反応，第五分科会：エネルギー危機と人口爆発に交通関連諸科学はどこまで応え得るか>から成り，国外から約二十数名，国内から約三十数名が参加し，具体的事実の報告と基本的考えをふまえたうえでの質疑応答という形式で進められた。

時宜をえたこのシンポジウムは非常に豊富な内容をもつものであったと思われる。まず参加者であるが，会場では自国・他国を問わず，我々は交通の将来的課題や今日的課題について，実際どう解決していったらよいか，様々な角度から真剣な意見交換がなされたのである。これは参加者を交通問題の専門家に限らず，あらゆる分野から実践者・学者・著述家そして宗教家に至るまで，多様な顔ぶれが一堂に会したからであろう。さらに，もう一つはテーマの設定と全体プログラムである。おそらくジャーナリズム的土壌がそうさせたのであろうが，分科会は現代車社会論に始まり，モノレール等の新交通機関・バスレーン等の交通制御システム・ハンディキャプトを含めた歩行者対策等々，幾つかの事例をスライドにより，わかりやすく説明し，地球的立場にたてば，人口問題やエネルギー省力化を認識する中で，交通自制策を考えるべきだとするのである。一見無関係にみえる各テーマは，相互関係を保ちつつ，最終的には我々に新たな観点をうながすのである。

最後に全員を代表し，全体的なまとめを話した築地本願寺輪番工藤義修氏は，「表面に出てくる交通問題等も大切である。しかし，それを解決する人の根本の願いの中に，宗教的なもの，倫理性がなかったならば，ほんとうの永遠の人間の幸福と喜びは生み出せないのではなかろうか」と指摘する。

<企画調整局企画課　長谷川雅彦>

あとがき

エネルギー問題は現在，都市問題の重要な課題<有効利用・安全性・環境保全・価格体系等>であるとの観点から助川局長のご協力を得て特集にくみました。　<杉浦>

おしらせ

都市科学研究室の電話番号<直通>が6月16日から<671>2011・2029に変更になりました。

調査季報

42

1974年6月30日

編集・発行——横浜市企画調整局都市科学研究室

横浜市中区港町1—1

印刷——西岡印刷株式会社

横浜市南区吉野町5—22